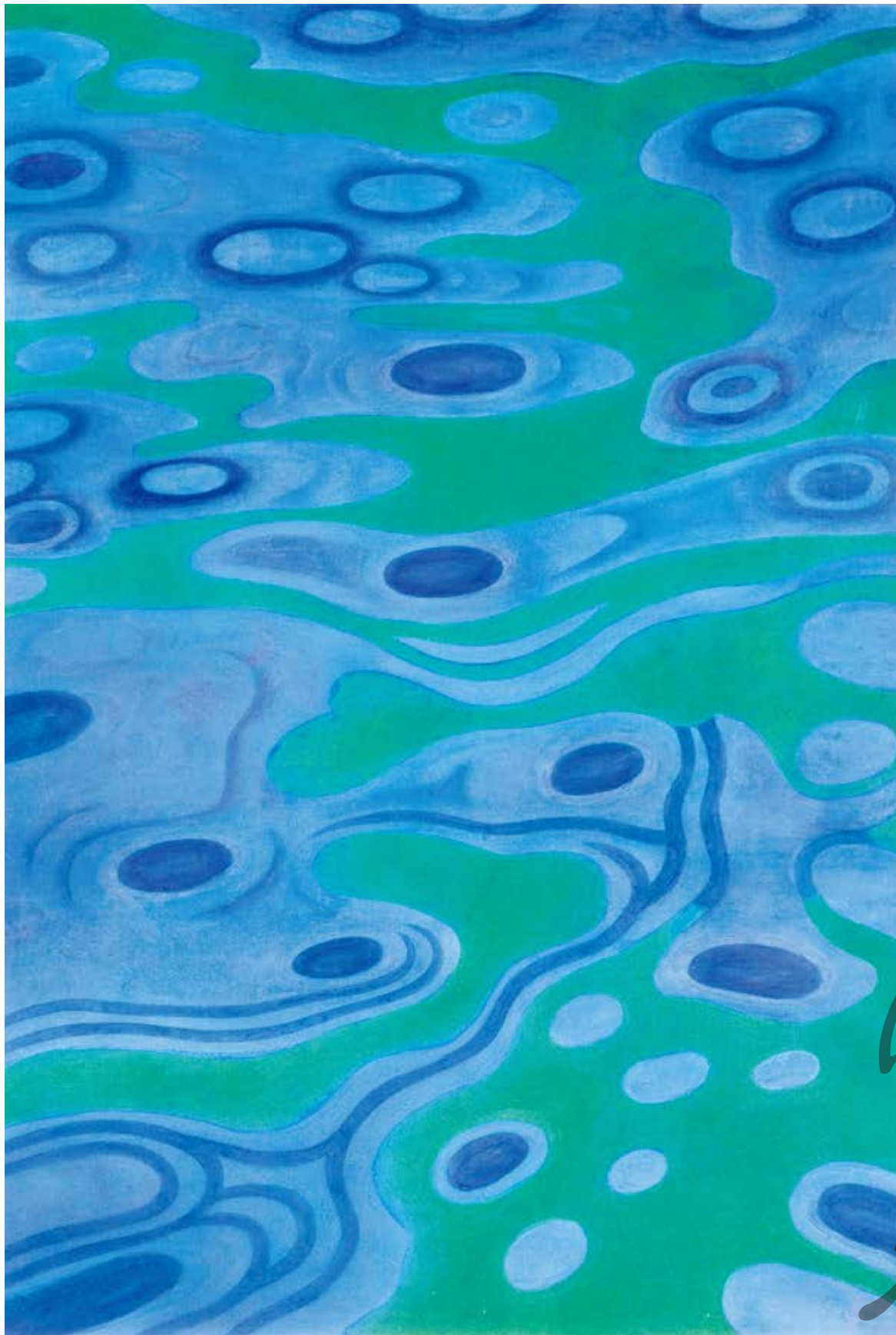


2017年

6月9日(金)

ー8月1日(火)

大分県立美術館 3階 コレクション展示室



福田平八郎《水》1958年

水
に
舌
自
心
う

2017 コレクション展 II

【前期】6/9(金)ー7/4(火) 【後期】7/6(木)ー8/1(火)

◎7月5日(水)は展示替えのため休展 ◎作品は一部展示替えを行います

【開館時間】10:00ー19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

【観覧料】一般300(250)円/大学生・高校生200(150)円 **中学生以下は無料**

※()内は20名以上の団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※大分県芸術文化友の会びび KOTOBUKI・TAKASAGO無料、UME団体料金 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添人(1名)は無料

〒870-0036 大分市寿町2番1号 TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567
<http://www.opam.jp> JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

大分県立美術館

水に憩う

日本の四季において「水」は自然を語る要素のひとつです。古来、日本人は「水」からインスピレーションを得て想像力をふくらませ、作品に結実させてきました。コレクション展Ⅱでは、当館の収蔵品のなかから、水をモチーフに制作された作品を精選し、ご紹介します。

日本画からは、福田平八郎の代表作《水》と、岩澤重夫の生涯の大作《天響水心》を展示し、水の豊かな表情を異なる作風を

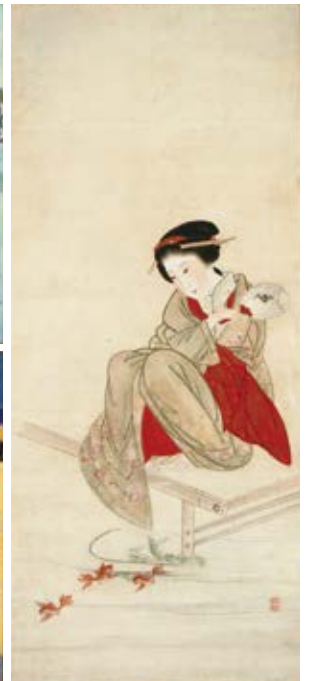
通してご紹介します。工芸、洋画、彫刻、版画においても、水と人や水辺の風景をモチーフにした優品の数々をご紹介します。



河合誓徳《揺らぎ》1995年



左上段：アルベール・マルケ《ホルクローの小舟》制作年不詳、左下段：藤本東一良《ノルマンディの浜》1976年、右：吉原真龍《美人と金魚》江戸時代末期頃



みどころピックアップ

福田平八郎《水》（作品画像/表面）

絶えず変容する水にとりつかれ、膨大な数のスケッチを行った福田平八郎。三十年にわたる構想の末にたどりついた《水》は、福田の画業の集大成といえます。揺らめく水を独自のフォルムと大胆な構図で表し、自然の中に潜む神秘的な美しさを見事にとらえています。本作のスケッチのほか、水を写したスケッチブック、水に遊ぶ鯉や水鳥など、ヴァリエーション豊かな福田の水の世界を紹介します。

岩澤重夫《天響水心》

荒れ狂う激流に飛び散る水しぶき。場所は中津市耶馬溪町の山国川上流。岩澤は、大雨によるダム放流で激変した川の様子を、縦182cm、横1,456cmという巨大な画面に描き出しました。タイトルには自然との対話を通してつかんだ水の心を表現したいという作家の思いが込められています。



岩澤重夫《天響水心》1990年 株式会社大分銀行寄託

ギャラリー・トーク

6月11日(日)・6月25日(日)・7月9日(日)・7月23日(日)

時間 13:30 - 14:30

会場 3階 コレクション展示室

※申込不要
※要覧覧券

開催中の企画展

何必館コレクション
北大路魯山人展 一和の美を問うー
～6月11日(日) 3階 展示室B



北大路魯山人《つばき鉢》1938年 何必館・京都現代美術館蔵

次回開催の企画展

素描の魅力
ー作家のアトリエからー
6月28日(水)～7月30日(日)
3階 展示室B



宇治山哲平
《アスワンの民家》
1965年

次回コレクション展のご案内

コレクション展Ⅲ「躍動するカタチ」
心弾むイメージを表した絵画や立体作品を紹介。
8月4日(金)～10月3日(火)
3階 コレクション展示室

OPAM 大分県立美術館 Oita Prefectural Art Museum

〒870-0036 大分市寿町2番1号
TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567 <http://www.opam.jp>
JR大分駅 府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

